



ピーターの法則 The Peter Principle

ローレンス・J・ピーター

編集 Jun Hirabayashi jun@hirax.net

「ピーターの法則」と「ピーターの必然」

- 階層社会では、
 - すべて的人是は昇進を重ね、
 - (いずれは)各々の「無能レベル」に到達する
- 組織に「十分な地位」と、「十分な時間」がある場合
 - 全ての個人は、その人の「無能レベル」まで昇進し、そこに留まり続ける
 - やがて「あらゆる地位は、職責を果たせない無能な人間で占められる」
- 「仕事は、まだ無能レベルに達していない人により行われている」
- 真の「無能レベル」になりたくなければ、「無能」に見せる
 - 昇進しない。「創造的無能」は「昇進拒否」に勝る
 - 変人ぶりを発揮する。(例: 普通でない服装、異常に汚い机)

「無能への道」と「適性検査」

■ 昇進は「無能への道」の一里塚

■ 適性検査

□ 「少ない昇進回数で無能レベルに達することができる」

■ 1番最初の役割: その人の適性に合い能力を発揮

□ →すぐ昇進し次の役割へ進む

■ 2番目の役割: 適性に合わない(少なくとも最高ではない)

□ →無能レベルに一コマ進む。

□ 例: プログラマーからマネージャーへ昇進

■ スーパー・プログラマーがスーパー無能マネージャーに

階層社会の効率

- 「階層社会の効率は、その成熟指数に反比例する」
 - 成熟指数(MQ: Maturity Quotient)
 - $MQ = \text{無能レベルに達した人数} / \text{階層社会の総人数} \times 100$
- 成熟指数が100%の社会
 - 全員が「無能レベル」に達している
 - 有益な仕事が行われない
 - (十分な時間と地位がある社会)

「階級社会」と「無能レベル」

■ 無能レベルに達する人の人数

- 階層社会に存在する「地位」の数に比例する

■ 平等社会より階級社会の方が効率が良い

- 被支配階級:

- 無能レベルまでは昇進しない(身分境界線以上には行かない)

- 支配階級:

- 「地位」の数が少ない少数社会
- 無能レベルに到達しなくて済む

階層社会のオキテ(掟)

- 「階層は維持されなければならない」
- 階層的厄介払い
 - すごく有能な人は排除される
 - 階層社会をめちゃくちゃにしてしまう
 - すごく無能な人も排除される
 - 階層の内部基準に従えない

人が「無能レベル」であるかを知る方法

- 「その人は何か有益な仕事を成しつつありますか？」
 - イエス → その人はまだ「無能レベル」に達していない
 - ノー → その人は立派な「無能レベル」
 - わからない → あなたが「無能レベル」に到達している

コンピュータにおけるピーターの法則

- 計算機自身に欠陥があり「無能」かもしれない
- 計算機が有能でも使う人が無能→無能さを拡大
 - 無能なものが有能なものを使う = すさまじく無能
 - 無能 × 有能 = すさまじく無能
- 計算機がピーター法則に陥る
 1. 計算機が役立つ
 2. 計算機の役割が昇進し
 3. 「計算機にはできないこと」をしなければならなくなる
 4. = 計算機もやはり「無能レベル」にたどり着く